

17 ティーボール



場所	人数	対象年齢	運動強度
屋内外	1チーム 10～15名	小学生	中度

特色

ティーボールは、野球やソフトボールに極めて類似したゲームです。ティーボールが野球やソフトボールと大きく異なるのは、ピッチャーが投げるのではなく、本塁プレートに置いたバッティングティーにボールをのせその止まったボールを打者が打つことにあります。したがって、このティーボールになじむことが、子供たちの野球やソフトボールに対する興味の下地になると思われます。

用具

- < ボール > やわらかいもの
- < バット > プラスティック
- < バッティングティー >

コート

* 守備位置は右の図の通り

バッターズサークル: 本塁プレートを中心として半径3メートルの円を描く。打者はこの円の中で打撃を行う。



競技方法

- (1) 試合は原則として次の3通りとする。人数は10～15名とし、両チームの数を合わせる。
 - 1 2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数(3回～5回)を終えた時、得点の多いチームが勝者となる。スリーアウト毎に塁上の走者はベンチに返す。最終回の残塁者はこの限りではない。
 - 2 2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全員の攻撃を完了した時点で攻守を交代し、規定の回数(3回～5回)を終えた時、得点の多いチームが勝者となる。残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の走者はこの限りではない。
 - 3 2チームが攻撃と守備に分かれ、第3アウトが成立することによって攻守を交代し、規定の回数(3回～5回)を終えた時、得点の多いチームが勝者となる。
- (2) 攻守の決定は、試合前に審判員立会いのもとでジャンケンで決める。
- (3) 得点
走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。なお1塁、2塁、3塁の駆け抜けは認められている。
- (4) アウト
バッターまたは走者は次の場合にアウトとなる。
 - 1 フェア区域・ファウル区域にかかわらず、打ったボールが地面に落ちる前に守備側に捕られた場合、バッターはアウト。
 - 2 守備側がゴロを捕球して投げたボールが、打ったバッターよりも先に一塁側に到着した場合、または後ろの走者に押されて進塁してくる走者より先に、そのベースにボールが到着した場合、走者はアウト。
 - 3 塁を離れた走者に、ボールでタッチした場合、その走者はアウト。
- (5) 注意事項
 - 1 審判が「プレイ」を宣言した後、打者はバッティングティーに載ったボールを打つ。
 - 2 打者がティーを打ってしまった場合、ファールも1ストライクとなり、2ストライクの場合のファールはアウトになる。
 - 3 走者は打者が打った後、離塁することができる。
 - 4 盗塁、リードはなし。
 - 5 バントやプッシュバントはなし。
 - 1 尚、このルールは、日本野球連盟と富山県ティーボール連盟が野球の普及のために考案したものであり、ルールについては、柔軟に対応できる。
 - 2 ティーボールは2000年国体のデモンストレーション種目として舟橋村で開催された。